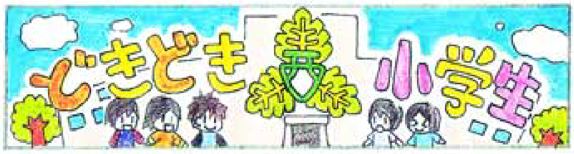
NIE特集

Newspaper In Education

毎月第2・4火曜日発行



西多賀小

学校名　仙台市立西多賀小学校
所在地　仙台市太白区西多賀2の3の1
電　話　022(245)5355
校　長　吉田　正志
児　童　584人

色や形に多彩な変化

トンボ玉の美しさの秘密を探れ！

知り隊

みなさんは「トンボ玉」を知っていますか。穴の開いた小さなガラス玉のことで、表面の模様がトンボの複眼のように見えることが名前の由来と言われます。初めてトンボ玉を見たとき、個性的な模様の美しさにとても驚きました。そこでトンボ玉の作り方や魅力を調べようと、工藤正昭さんの工房を訪ねました。

工藤さんの工房は学校近くの鈎取新田町にあります。中に入ると、大きなバーナーなど専門道具がたくさんあり、わくわくしました。飾ってあるトンボ玉は触り心地、色、模様、大きさ、形がすべて違い、とてもきれいでした。

工藤さんを囲んで、「トンボ玉できた！」

ガラス棒で模様付け

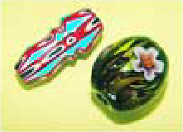
工藤さんは「若いころからガラス作りに携わりたいという夢を持っていた」そうです。あるとき、トンボ玉作りをテレビで見て「これだ」と思い、18年前に現在の工房を開き、研究と制作に励んでいます。

私たちも早速、トンボ玉を作ってみました。

右手に色ガラス棒、左手に先端に粘土を塗り付けた直径4㍉ほどの鉄の棒を持ちます。鉄の棒の先端を赤くなるまでバーナーで焼きます。次に色ガラス棒を溶かし、鉄の棒にからめながら巻き付けます。

形が整ったら別の細いガラス棒で模様を付け、回しながら溶け込むまで待ちます。赤味が取れたら灰の中に入れて、ゆっくり冷まします。

体験中、鉄の棒と色ガラス棒を両手でずっと回しているのがとても疲れました。さらに溶かしながら形を整えるのが難しかったです。出来上がったものは工藤さんのとは大分違っていましたが、自分だけのたった一つのトンボ玉ができてうれしくなり、何度も握りしめました。きれいなものは最初から完ぺきにできるのではなく、それまでの苦労や努力があって作られるものだと実感できました。



工藤さんのトンボ玉

◇　◇

工藤さんは「トンボ玉は、一つ作るとまた新たな発想がわく。終わりがないところが楽しい」「みんなも、夢や志を持ち続けて」とおっしゃいました。

わたしたちも、夢を持ち、逃げ出さずに最後までやり遂げることが大切だと思いました。

文・小関りり香、藤田朱莉、佐々木瑞佳（6年）

言い隊

■あいさつ 心がけたい■

西小では、計画委員会が中心となって「あいさつ運動」を行っています。毎朝、計画委員が昇降口前に立って、登校する児童へ率先してあいさつをします。昨年度までは期間を決めて行っていましたが、本年度は毎日行われています。

ある日、わたしは昇降口前を通ったとき、一人一人がきちんとあいさつをしていることに気付きました。学校があいさつであふれていると活気があり、心地よいなあ、と思いました。今後は計画委員だけでなく、学級ごとに行う予定です。

明るいあいさつは、する方もされる方も気持ちがよいので、わたしも自分からあいさつをするよう心がけていきたいです。

（6年・日野真由）

■夢実現に努力続ける■

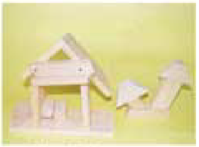
みなさんには夢がありますか。ぼくの夢はプロ野球選手です。「365日中、360日努力している」と書かれた有名なスポーツ選手の本に出合ったとき、ぼくの夢に対する気持ちは、大きく変わりました。夢を実現させるためには相当な努力が必要だと気付いたのです。

ぼくの好きな巨人の原監督は、高校時代の監督が父親で、他の選手以上に厳しい指導を受けながらも負けずに練習したのだそうです。こうした努力があって、今の姿があると思いました。

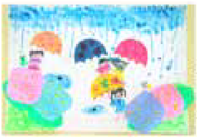
ぼくも練習のとき以外に素振りやランニングをしています。これからも夢のためにできることを続けたいです。

（6年・佐藤歩人）

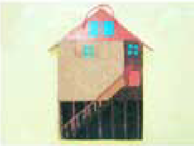
うきうきキャンバス



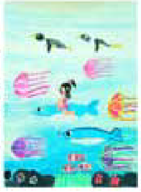
家ときのこ
4年・高橋真央子



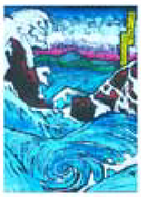
雨の日は楽しいな
1年・栗原そら



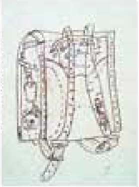
クリップボード
5年・葛西裕樹



イルカにのって泳ぐわたし
2年・斎藤帆風



色を重ねて
6年・桂陽香



ぼくのランドセル
3年・松藤海斗

教え隊　かしわ太鼓

2008年秋、今の6年生が4年生だったときの発表会

豊かな心 力強さ表現

西小には、西多賀の歴史を表した「かしわ太鼓」があります。民族歌舞団「ほうねん座」による創作曲で、校章にある多賀神社の神木「柏」からこの名がつけられました。児童の成長を願って作られた自慢の太鼓です。

2005年から毎年秋の音楽会で、4年生が発表しています。4年生になるのが、みんな楽しみ。年度の終わりには「かしわ太鼓を伝える会」が開かれ、3年生に曲が受けつがれます。

西多賀の人々の豊かな心や力強さを表現した「かしわ太鼓」の伝統がいつまでも続いてほしいです。

文・松山新、坂口奈穂（6年）

編集後記

「トンボ玉って実際はどんなものかなあ」とみんなで話しながら工房に向かった日、色とりどりのトンボ玉がとてもきれいで、本当にびっくりしました。今回の「知り隊」の取材と体験から、工藤正昭さんのトンボ玉に対する思いとガラスの奥深さを学ぶことができました。

また、「教え隊」で調べた「かしわ太鼓」を通し、西多賀の歴史や曲に込めた思いを深く知り、ますますこの太鼓が好きになりました。

調べたことをどんな順序で書けば伝わるかを考え、字数に合わせて記事にする作業は難しかったですが、この新聞作りで西多賀の地域のことをよく知ることができ、とてもよい経験になりました。

〈編集委員〉上野瑞萌、小関りり香、佐々木瑞佳、坂口奈穂、十文字夏希、松山新、板橋咲季、藤田朱莉、古谷美空（6年）
題字デザイン　十文字夏希（6年）
〈指導教諭〉林美紀、千葉明、戸村純、小島友里

次回（10月13日）は中山小（仙台市）と、斎川小（白石市）です。